

3年生の講義で、難病の方のお話を聴きました

6月下旬、3年生の授業「暮らしを支える看護実践」で、難病を抱えながら地域で暮らされている方々のお話を聴かせていただきました。外見ではわからない食事や排せつ、移動など気をつけなければならないことが沢山あること、実際に使用している医療用具を見せてもらうことで在宅での生活が理解できました。また、医療者に支えてもらった感謝の思いや、難病にしなければ会えなかった人、仲間がいることなどが良かったと、前向きなお話を聞かせてもらいました。

苦手な医療費や介護保険サービス等について、わかりやすく教えてもらいました。

病気や障害の有無にかかわらず困っている時は助け合うことが必要だと感じました。



災害時に困難だったこと、雇用保障など政策の課題があることも知ることができました。

学生からの感想

「教科書では曖昧なイメージを持っていましたが、実際にお話を伺うことで日常生活を送ることの大変さや苦悩があることが理解できました。また、今どこで働いているなど聞き、それぞれの方に生活があるということを実感しました。これから病院で看護師として働いたときに、患者さん1人ひとりの退院後の生活を見据えた看護ができるように頑張ります。」と話していました。

